

- 1 派遣期日 平成28年10月22日(土)
- 2 研修先 学校名(会場名) 東京都日野市立日野第三小学校
所在地 東京都日野市日野台2-1-1
<http://www.e-hino3.hino-ky.ed.jp/>

3 研修内容

第2回 国語授業のユニバーサルデザイン実践研究大会
全員のアクティブラーニングを支える国語授業力

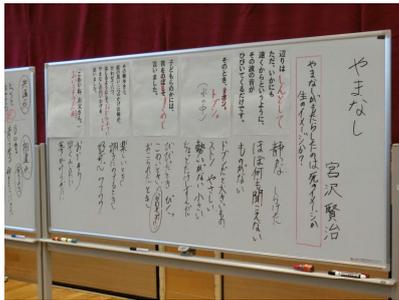
(1) 提案授業①「やまなし」(光村図書 六年)

日野市立日野第三小学校 石原 厚志先生

研究主題：国語科授業におけるユニバーサルデザイン ～全員参加の文学の授業づくり～

- ・授業を焦点化する。【シンプル】 → 「主題」を捉えることに絞込む
- ・授業を視覚化する。【ビジュアル】 → 五月と十二月の場面の対比関係が分かる板書
- ・授業を共有化する。【シェア】 → 分類や「たずね歩き」による意見交流

その他、わざと言葉を置き換えたセンテンスカードの提示や、登場人物の動作を子ども自身に劇化させるなどの工夫があった。



(2) 提案授業②「大造じいさんとガン」(光村図書 五年)

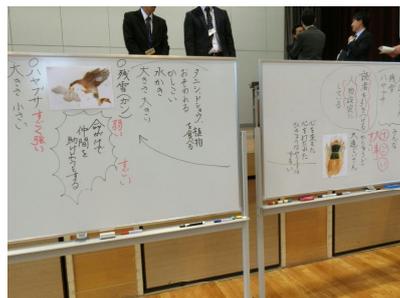
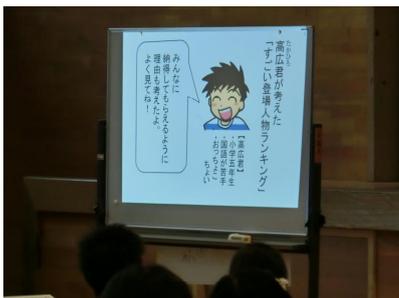
埼玉県桶川市立加納小学校 加藤 孝人先生

研究主題：全員のアクティブラーニングを支える国語授業力

ー「比べて読む」ことに焦点を当てて授業を構成するー

「すごい登場人物ランキング」をつくることを通して、登場人物を比べて読んだり、根拠となるセンテンスを探したりする動機付けとしている。

「比べて読む」ことによって、何が同じで(繰り返されていて)、何が違うのか(何が変わったか)に焦点を当てる。意図的にズレを生じさせることによって子どもたちの思考に揺さぶりをかけ、話し合いを活発にし、一人一人の思考を深めることができる。



(3) 授業協議会

- ・ユニバーサルデザインのためには、課題の焦点化が大切である。
- ・教師が待つ時間を設け、子どものつぶやきを拾い、子どもの反応に合わせる必要がある。(文章を味わわせる)
- ・教師の「教えたい」ではなく、子どもの「学びたい」に変えていく。
- ・子どもの思考の流れ(「共通点より相違点の方が見つけやすい」など)に合わせた授業の展開を考える。

(4) 授業プレゼンテーション(各学級)

- ①具体的な授業構成の提案 「インターネット・コミュニケーション」(学校図書 六年)
 - ・子どもたちの「つまづき」を想定する。
 - ・学習のねらいを明確にして、山場から計画する。
 - ・5つの視点(「ひきつける」「方向づける」「そろえる」「むすびつける」「わかった・できた」と実感する)で授業を計画・見直しする。
 - ・10のしかけをもとに、授業を完成させる。
- ②ホワイトボードの活用した読み 「注文の多い料理店」(光村図書 五年)
 - ・ホワイトボードを使うことで、課題の焦点化、意見の視覚化と共有化が同時に実現できる。

(5) 講演「全員のアクティブラーニングを支える国語授業力」

筑波大学附属小学校 桂 聖先生

- ◆ 参加レベルが重要(学級づくりの大切さ)
- ◆ 「論理」を授業の目標にする

(『筑波発 読みの系統指導で読む力を育てる』東洋館出版社)

①作品の構造	②視点	③人物	④主題	⑤文学の表現技法	⑥文種	⑦活動用語
--------	-----	-----	-----	----------	-----	-------

- ◆ 教材のしかけをつくる「10の方法」

(『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』東洋館出版社)

①順序を変える	②選択肢をつくる	③置き換える	④隠す	⑤加える
⑥限定する	⑦分類する	⑧図解する	⑨配置する	⑩仮定する

- ◆ 主体性(主体的な学び)……問題意識を引き出す。

「どんな話だと思う?」(予想)、「もし〇〇だったら、
どうなるかな?」(揺さぶり)

多様性(対話的な学び)……着眼点の自由性を守る。

意見の「違い」や「ズレ」を際立たせて語り合う。

本質性(深い学び)……論理的な読み方をツールにして解釈、評価する。

4 感想

全員参加の授業を支えるためには、様々な工夫を意図的に散りばめていくことが大切なのだと実感した。しかし、その「しかけ」は生徒の実態に合わせて構成する必要がある、生徒の実態の把握や教材研究の重要性が再確認できた。今回学んだ授業への視点や「しかけ」を活用しながら、深い学びを実践できるアクティブラーニングの授業が行えるよう、今後も研修を深めていきたい。